

●特集2／醍醐味を探る／1／

## 醍醐味

# おだやかな表情に魅せられて

土井 芳子（神戸市婦人団体協議会会長）

敗戦直後の物資窮乏時代、配給品だけではとても生きていけず、

タケノコ生活、売り食い生活が始まった。土井さんもご多分にもれず、骨董品、衣類、箸など生活費と子供たちの学資のため、とにかく

く売れるものは何でも売った。社会が少し落ち着いた頃から今度は

蒐集が始まった。それは各国各地の人形、民芸品、仏像、壺などで、あつた。「お金に困ったときは自分が子供や孫が売り食いできて当

わて、しみじみと眺めると、な

るほど、中国の観音は少し目がつり上がり、朝鮮のそれはいささか胴が細く、日本のそれはふくよかでいう違いはあるが、土井さん

のようにおだやかな顔立ちだ。

「仏像の魅力は顔ですね。おだ

やかで崇高で、じつと見ているとこっちまでおだやかになるでしょう。疲れたときでも、あれはいつ

買ったのか、誰に買ったのかと思

い出しながら見ていると楽しい」

仏像は男でも女でもない。男女

それぞれの良いところを合体したもの。それだけ、この世のもので

はない氣品と美しさがある。「美しいものなら何でも集めます」と

いう土井さんは“美”的蒐集家。

手もとにある仏像は必ずしも土

井さんが買ったものばかりではない。家にあったもの、戦死したご

主人が中国からもち帰ったものもある。特に後者には九口（中国の瀬戸物の町）の観音像など、土井さん

が最も愛している仏像がある。

「よい政治がなされたところにはよい玩具がある」とは土井さんの持論だが、よい人形、よい仏像を

求める土井さんの旅はまだまだ終わりそうにない。



九口の觀音像を手にニコニコと話す土井さん

人形の蒐集家として知られる人ぞ知る人ぞ知る人形萬点の人形だが、約一万点の人形今神戸市に寄贈され、婦人会館五階に陳列されている。

さて、通された自宅

醍醐味

# 60にして宝塚歌劇と出逢つた良き人生

橋本 武 △灘高等学校教諭▽

東大合格率一位で全国に名を馳せるかの灘高等学校の先生ときらびやかな女の園、宝塚歌劇団の舞台はどうもイメージとして結びつきにくいかもしれない。が、本山の青蛙人形館（郷土人形の集収家としても有名）こと橋本邸の書斎

でお話を伺つていると橋本先生の宝塚歌劇に対する傾倒ぶりに圧倒されんばかりとなる。

そもそも昭和5年頃には東京で松竹少女歌劇を観ていたが、40年経つて還暦を迎えた年のある夕方偶然テレビで“ザ・タカラヅカ”

を観て青春時代に連れ戻された気分になつた

のがきかけ。けれどその時にはこれが高くなるほど“宝塚熱”が高くなる。5年前に初めて舞台を観、一応の満足感はあつたが心に響かなかつた。それで先生と

おはあちゃんをとり囲むタカラヅカの団員とファンの人々（橋本邸にて）

（撮影：橋本先生ご夫妻とおはあちゃんをとり囲むタカラヅカの団員とファンの人々（橋本邸にて））

がよくわかり楽しさも倍増、2回目よりは3回目と、どんなに観て

も飽きることのない奥深い良さを発見し、のめり込んでしまい今日に至る——といった次第。「音楽学校で2年間、厳しいしつけで根性を叩き直すんですね。自我がい落とされ、その中から個性が磨かれるんですね。氣立ても良く、礼儀正しく、内からなる美しさで顔が輝いているんです」と礼讃。授業でも講演会でも宝塚のことをよく話題にされるそうだ。

舞台は平均月10回は観に行く。スターの鳳蘭から音楽学校の生徒にいたるまでタカラヅカでも先生は有名だ。夫婦共通の趣味なのでカメラ片手に宝塚へ行き、団員と一緒に写真を撮るのが又楽しい。著作「おお！タカラヅカ」はP ART IIまで発刊され、全国のヴァーファンから橋本先生宛に山のよくなアソブレターが寄せられている。子供のいない橋本ご夫妻についてはタカラヅカを通じて知り合った多勢の生徒やファン達は我が子のようにいとおしい。

「宝塚歌劇を知つてこんなにも楽しい老人生を送れて幸せです。人生は60から始まる、ですよ！」

しては時間の余裕がある学校の期末テスト中に1週間連続で宝塚の舞台へ足を運んでみた。すると、どうだろう、初めてよりは2回目がよくわかり楽しさも倍増、2回目よりは3回目と、どんなに観て

## 醍醐味ニ味

# 七十になつたら 孫連れサンバね

若間

弘子

（株エイボンプロダクト  
地区マネージャー）

「七年？ もう七年目？」

スバラ

「七味エ」

（と自分でもびっくり、感心している若間弘子さんは、中年ほど張り切り、出席率もいいという、神戸っ子サンバチームのほぼ初期時代からの優秀なメンバー。手づくりの衣裳で、いつも子連れで参加）

「あの娘が幼稚園のときからでしょ、いまもう六年生だものねえ」

——仕事をほっぽり出して飛んでいくほどにどうしてそんなにサン

バがお好き？

「リズム、ね。サンバに限らずリズムってものがものすごい好き。これは生まれつきじゃないの。大体、父が船に乗って室内音楽のドラムとピアノをやつてたというジャズ畠の人だったでしょ。当時日本で二台目というRCAの電蓄（なつかしいコトバ）がウチにあつた。母もモダンガールで相当踊り回っていた人。私もジャズが大好き。それにサンバがなかつたら

「サンバやるために若くなかったら困るやん。毎日ダラダラ暮ら

してるとお腹も出てくるし、お尻

も出てくるから、ふだんから多少

ともね、努力はしますよ。五月の

神戸まつりにそなえていつも二月

になると準備運動を始めるの。狭い我が家で、冷蔵庫につかまつて

ウンコラシヨツと柔軟体操を（笑）

ほんの十分くらい。毎晩みんなが寝静まつてからね」

「衣裳きて、お化粧して踊つてのときは、もう若間弘子という名前もポイと捨て、「主婦」もポイと捨て、サンバの踊り子になって、いいねえ」（とまたまた自分で感心）

——もちろんこれからもずっと？

「やるやる（と勢いこんで）やりたいねえ。サンバ踊つてね、あ

あ私はまだここまで踊れると思う

と、ほかのことでもまだやれるつ

て勇気づくの。きっとおばあちゃんになつてもやってるでしよう

ね。どこかでそのうちいつか、七

十いくつのおばあちゃんがサンバ踊つてるよ、てなことになるんじ

やないかな（笑）」



今年の神戸まつりでパレード前に集合した神戸っ子サンバチーム。  
前列左2人が美貌と可憐さで名高い若間さん母娘。

## 趣味ニ味

# バンジヨー片手 リズムをきざんで

大森

重志

△サントリーニ株デザイン室長▽



「デキシーランド」でピアノの中川さんと息の合った演奏を楽しむ大森さん

神戸が日本のジャズの発祥地であることは周知の話。現在もデキシー・スイング、トラディショナルなジャズが日本で一番盛んな土地で、ことデキシーに関しては、本場アメリカ・ニューオーリンズよりも活況を呈しているのが神戸

の街。そして神戸のデキシーの演奏者というのは、ほとんどがアメリカ人である。しかもプロ顔負けの演奏を披露するからタイヘン。

そんな仲間のひとりが大森重志さん。「趣味があると、仕事にツヤができるん

どちやうかな」と話す

大森さん、

本職はサン

トリ一のデ

ザイン室長

さん。あの

「サントリ

ー50」やビ

ールの「メ

ルツエン」、

そして新製

品の「樹氷」

とか、サン

トリ一製品

のボトルや

ラベルやマ

ークやロゴ

タイプそし

てダンボール箱にいたるまで、すべてのアートディレクションが本業。この人がバンジョーを弾く。

大森さん、バンジョー奏者たち

のグループ「アンカーズ・バンジ

ヨーバンド」が主なるレギュラー

グルーブに仲間入りする。あくま

で趣味で演つてのバンジョーだけ

ど、プロの演奏者と一緒に楽しん

だり、外人演奏者が来日したりす

ると一緒にプレイしたり、またデ

キシーのコンサートがあると必ず

といっていいほど顔を出している

売れっ子。初めてバンジョーを手

にしたのは京都美大時代で、昭和

三十五年頃。その時はバンジョー

ってどんなものか全く知らず、手

さぐりでコードの押え方を研究し

たり独学で練習。プロの手ほどき

があつたりしてグングン上達。以

来十八年間、まさに音楽は世界共

通のことば、音楽を通じての人と

の交友が大森さんの生活に大きな

意義をもつてゐる。

バンジョーは、リズムをきざんで他の演奏者を乗せていく、リズム楽器。

「お前のバンジョーがバツクでリズムをきざんでると吹きやすいぜ▽つていわれるような演奏が理想なんです」と話す大森さん。いえ、みんななかなか乗つて演つてますよ。

## 醍醐味ニ味

# まるで蝶の館 春になると

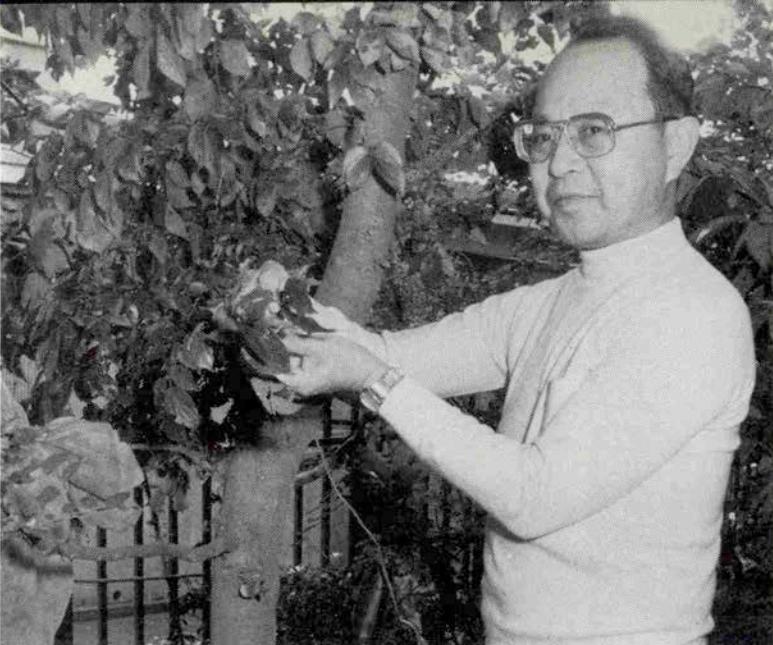
武衛 晴雄△神戸市々民局々長△

静かな住宅街にある武衛家のに訪れた時出迎えてくれたのは、ケンちゃんという九才のワン公。「お客様にご挨拶しなさい」とケンちゃんのうしろから現われた順子夫人は、本当の子供を諭すように仰つしやった。

「蝶を集め始めたのは、中学時代の国語の先生の影響なんですよ」上松杜暢さんの「蝶」という色紙の飾つてある武衛家の応接室。見ると暖簾も時計も壁かけも、何と全部蝶々である。「最近はコレクションをするより蝶を育てる方に熱中してますよ」それでも標本箱の中に本箱の中には、神戸周辺では決つてお目にかかることがあるかない限り名蝶の宝石チヨウ（別名オームラサキ）等珍種がいっぱい。

お次にその飼育現場を拝見。蝶といふと小学校の記憶からすぐキヤベツの葉裏の青虫を思い出すのだが、榎、ホトトギス、山椒、寒葵、みかん、と種類によつて卵を産む木の好みがあるそうだ。近くにない木は遠く上郡まで採り行つて庭に移植する。榎が好きなオームラサキは今はさなぎ。葉の色が枯れるにつれ保護色で色を変えながら冬を越し、六月に蝶にならる。あまり可愛いとは思えないさなぎを、目を細めて愛でておられる武衛さん最愛の愛蝶の一種のようだ。

春になるとオームラサキ、ギフチヨウ、ゴマダラチヨウと武衛家の周囲は蝴蝶の乱舞。その頃にもう一度と思いつつ失礼した時もケンちゃんのお見送り。命ある物すべてに優しい武衛ご夫妻だった。



オームラサキの幼虫は、今は榎の葉裏でお眠み

イックな名前通りの美女？  
な蝶等珍種がいっぱい。  
い。

「蝶も減りましたよ」そりや乱獲のせいじやありませんかと、少し意地悪く考へてみると「コレクションで集めるなんて自然に影響ないんですね。悪いのは乱開発といふことですよ。実際自然界はうまく出来ていて、異常発生しても必ず餌不足で死んでしまう。自然循環というのでしょうかね。ほうっておけば自然はうまく治まっている。人が意味もないのに殺すのが一番悪いんです」と語気を強めていわれた。

「お次にその飼育現場を拝見。蝶といふと小学校の記憶からすぐキヤベツの葉裏の青虫を思い出すのだが、榎、ホトトギス、山椒、寒葵、みかん、と種類によつて卵を産む木の好みがあるそうだ。近くにない木は遠く上郡まで採り行つて庭に移植する。榎が好きなオームラサキは今はさなぎ。葉の色が枯れるにつれ保護色で色を変えながら冬を越し、六月に蝶にならる。あまり可愛いとは思えないさなぎを、目を細めて愛でておられる武衛さん最愛の愛蝶の一種のようだ。

## 醍醐味二昧

# 菊は我が子のよう

●「可愛いね」

朱 相奎△「北京樓」代表者▽

十一月二日、相楽園で第二十七回神戸菊花展の審査が行なわれ、総合花壇の部で朱相奎さんは建設大臣賞を受賞。間口七二〇cm、奥行き二七〇cmの空間に小菊の懸崖づくりを主体に丹精込めた菊花群。秋を彩る見事な芸術品だ。

菊づくりを始めて二十七年になる。当時病弱で健康のためにと神戸市フランセンターから菊の苗を十本程もらつたのがきっかけ。

昔から土いじりが大好きで早速自

宅の庭に植えて栽培しているうち菊の魅力にとりつかれてしまつた。自宅の庭では我慢できなくなり、十年前、中山手に約四十七坪の土地を購入、今秋二五〇本余りが朱さんの手で薰香を放つた。

毎朝五時起床、北野町不動明王

神社にお参りし、六時から九時まで栽培所で菊の手入れをするのが日課で仕事中でも少しの暇があれば何度も見に行き、我が子のよう

な可愛がりよう。薔薇のときが一番

可愛いね」と目を細める。菊づくりを始めて一度も病気をしなかつた菊はカラッとしたひなたの環境を好むため六月、七月の梅雨時は悩みの種。水はけには充分気を配っているがひどい雨だと菊に傘をさす。一番の大敵はナメクジ。市販の薬剤では完全に退治できず、独自の方法を考えだした。菊のまわりにスイカやメロンの皮を置き、夜八時頃懷中電灯を片手にそつと覗くとイルワイルワ…。それをハサミで一匹ずつ切っていく。

こうすれば完全に退治できる。一晩に四〇匹もそれがあるとか。梅雨時の二か月間、毎晩ナメクジと格闘するのは大変なこと。だが「夜中にナメクジが体のまわりをゴソゴソしたら菊だつて睡眠不足になるからネ」とご本人。

朱さんは日本語が不自由なので薬剤の調合など栽培の知識を自分自身のカンで体得するに至るまで非常に苦労した。懸崖菊の杉づくり、大菊の千輪づくりは神戸で最初に手がけ、専門のフランセンターが習いにきたぐらい。菊花展入賞も醍醐味のひとつ。審査の日にみごろに咲かせるため工夫を凝らす。神戸菊花展で内閣総理大臣賞を二度、全日本菊花コンクールで日本菊花協会賞を、その他多数賞を得ている。「秘訣は?」と尋ねると「それはヒミツ」らしい。



手塩にかけた「千輪づくり」に目を細める朱さん。

# オリエンタル レディスクラブ

会員募集中



年会費：お一人 5,000円

割引：オリエンタルホテル、六甲オリエンタルホテル  
での宿泊、飲食の際サービス料10%割引いたし  
ます。その他いろいろの特典がございます。

特別催：隨時、会員のための特別催しをいたします。

お問い合わせ

オリエンタルレディスクラブ事務局

神戸市生田区京町25 オリエンタルホテル内

☎ (078)331-8111

MAKE UP WITH ROYAL

行動派の……

**CARRERA**  
PORSCHE DESIGN



ポルシェがファッショன、合理性に  
富んだサングラスをデザイン。  
レンズは簡単に取りはずしができます。

スペアレンズ付 ¥15,000

神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎ (321) 1212代表

三宮店・さんちかタウン ☎ (391) 1874~5

元町店は毎水曜日がお休みです

三宮店は第2、3水曜日がお休みです

# 趣味二昧

アンケート質問①あなたの人生の伴侶としての趣味は何ですか。②始めた動機と始められたのは何時ですか。③趣味として継続されて何年になりますか。④趣味についての失敗談やエピソードがありますか。⑤あなたの趣味についての心情はどうですか。⑥趣味と人生について、あるいは座右銘があれば。

細川

董（哲学者）

- ① 絵、哲学、創作、オーディオ、  
車、熱帯魚、美食。

② 好きだから。

③ 40年

- ④ 趣味以外僕の人生には何もない  
好きなことをしているのだから  
何をしても失敗と思わない。

- ⑤ 七度人間に生れても趣味に生き  
趣味に死す。

- ⑥ 自分の趣味に他人を期待するな  
趣味のみで生きられる人間でな  
ければ本当の人間ではない。



- 村上 和子（トマディレクター）  
① a 占い b  
少しでも遠くに行くこと c 絵

に乗つて通つて（バカ）

- ② 小学校—天才的。中学校—入  
選いっぱい。高校—絵描きにな  
るつもり。大学—人のを見るだ  
け。社会人—手も足も出さない。

- ③ 中学1年生

赤根 和生（美術評論家）

- ① 園芸と第8  
芸術（バイ  
プ・スモー  
キング・時  
には煙管）

- ② 好きだから。人間も好きだが時  
時煩わしくなる。人間を離れ無  
心になれる。終戦直後の死生乱  
脈をきわめた頃から。

- ③ 30年余。

- ④ 最近バイブルに先哲ソクラテスの  
風貌を彫りあげた。妻とのケン  
カ後は書斎にひきこもりこのバ  
イブルをくゆらすと気持ちが静ま  
る。

瀬戸裕吉郎（商店）

① 乗馬

- ② 乗馬

- ③ 健康のため

- ④ 大学2年頃。それ迄は過保護

- で神戸から出して貰えなかつた

- その反動 c おだてられて

- ④ a 新幹線に乗つて神田の古本屋

- に安い本を買あさりに行つた

- b 学生時代は旅をしての外

- 泊数が1年に50泊ぐらいだった

- 今でも歯医者さんは高松まで船

- ① 音楽鑑賞

- ② a 占い b  
少しでも遠くに行くこと c 絵

砂田 重民（文部大臣）

- ⑥ 最後の勝利を信じてわれわれは

- うちに人生の時は刻む

- ⑥ 心清く格調高いこと。

- ① 音楽鑑賞

と一歩ずつ前進してゆかねばならない(ピート・モンドリアン)

40才以後は健康のために。

美しいと思ったものは自分の手で確かめなくては気がすまないので広く浅く多趣味。

諸岡 博熊(公務員)



①生活雑学  
②梅棹忠夫先生に触発されて。

40才以後は健康のために。  
美しいと思ったものは自分の手で確かめなくては気がすまないので広く浅く多趣味。

藝術家にとって一切が美。一切を美にしなければならぬ。

竹田洋太郎(会社員)



①英米のペーパーパックの読書。  
②戦後古本屋

厚顔にも専門家を前にしてウソばばかり喋つて赤恥をかいた。  
知識に貪欲であることは、新たな発見があつて、それを生活に応用するための知的な、肉体的な冒險と充実が楽しい。

牛尾 吉朗(会社員)  
①印象派を中心とした洋画蒐集。  
②大学時代より死んだ親父の日本趣味に対抗して絵を見るようになつた。

④ここ10年程で天文学的に高騰し入手が頗る困難になつたため、彫刻に転身しつつある。

⑤洋画の蒐集は最高の贅沢である反面、趣味と実益を兼ねることが多い。従つて今や物心ともに一つの支えになつている。

⑥人生で趣味を持つことは心豊かになるが、趣味で人生を送るのは哀れである。

望月 美佐(書家)



①水泳、書籍の収集、洒子供の頃は楽しいから

新井 満(シネマディレクター)

①シネ中といわれる程のシネマ狂いのです。



②幼稚園時代母につれられて見た「赤と黒」に登場する人妻ダニエル・ダリューの妖艶美に魅せられて以来のこと。28年前。

④生まれてから今日までに見たシネマの全記録があります。今年度は11月20日現在で113本目。映画見すぎて近視、乱視、斜視になつてもうた。

⑤1週間映画館へ行けないと食欲も減り眼ランランと輝き手足うちふるえ、シネマ中毒の状態が出てきますので、周囲の人々は注意せねばなりません。私が作曲家や歌手になれたのも映画音楽を聞き狂つたせいでしょうな

⑥海とシネマと女はよく似ている溺れぬうちに逃げろや逃げろ!……しかし一生ムリでせうなア

服部 正(大阪社会事業短大教授)  
①何でも見てやろう精神酒もその一つ。性の問題では高橋鉄氏と意気投合。  
②少年期から40年前です。  
④自慢話めくが、20年以上前宮本常一氏の土佐の乞食の書き書きを見つけ出し本読み調で連続放



①何でも見てやろう精神酒もその一つ。性の問題では高橋鉄氏と意気投合。

坂井 時忠(知事)

①旅行記を読む、買物散歩。  
②暇な時いつでもできる

30年  
④つまらぬ物を買って家内に叱られます。

⑤going my way  
⑥敬天去私

送した。今、坂本長利さんが「土佐源氏」をしているが以前に私が開拓したものというわけだ。

(5) 趣味が仕事に溶けこんでいる。

ひとり酒が好きですが気の合つた友だちとは黙々と飲む雰囲気が一番心情にピッタリです。酒は和洋を問いません。

(6) 「私は人生を濶まで飲もう」という古代ギリシャ人の精神。良きエピキュリアンに徹したいといふのが私の願いです。

寺崎 忠夫(建設業)

(1) カメラ

(2) 建築、インテリアの作品資料を作ること。

(3) 20年

(5) 死ぬ迄続きそう。

(6) 美しいものを見たい。

鈴木 漢(会社員)

(1) 詩を作ること

(2) ことばを少し知りはじめたにきびさかりの頃、ことば自体の持つリズムや組み合わせの中にこ

そ、人生のすべてがあるのではなかいかと、錯覚したのでした。

(3) 20年余

(4) いわば生活とほとんど同義語です。「田を作ること」に対するうしろめたさを、つねに感じています。昨今はしかし、減反政策とかで田を作るのも随分肩身が狭いようですね。

(6) 遊びをせんとや生れけむ/戯れせんとや生れけん/遊ぶ子供の声きけば/わが身さえこと動がるれ(梁塵秘抄より)

南 和好(画家)

(1) 趣味=おもむき、このみ、専門家としてでなく楽しみとしてする事柄(広辞苑)抛つて惰情を

むさぶる事こそ私の最高の趣味

(2) 気持の上で迫いまわされる仕事から離れて惰情の中で自らをい

(3) 心地良すぎて溺れるくらいがあります。それも趣さ

(4) 心地良すぎて溺れるくらいあります。としむ趣きを知つて、何年になりますか。

(5) まずいい事です。でも私には麻薬のようなものです。

(6) 趣きとは、もののあはれを識ることだと思つています。

鴨居 玲(画家)

(1) 寒い国に住む期間が長かったので

(2) ウィンター

(3) 寒い国に住む期間が長かったので

(4) ヨーロッパは年に仕事をかねて2回ずつ行く。旅で出逢った友だち旅と感じるようになった。

(5) 自分が進歩し洗練されていくよう感動を求めて死ぬ迄旅を続けていきます。

山中 秀男(大丸勤務)

(1) スーパー集め

(2) ニューヨークでスープコレクターの友人が多数いた。また欧米のどこを旅行してもスープの土産品を売っている。

(3) 8年

(4) 欧米では赤ちゃんが生まれるとお祝いとしてスープを贈る習慣がある。生涯食いはぐれることがないようにという願い。

(5) 心の余裕、忘れ得ぬ旅の思い出

から降りようとして大騒ぎしている場面に出会い、その頃は僕も若かつたものですから少々自慢で、その青年をヒヨイと背中に負い、熱いまなざしてざわめいている看護婦さんたちの中をグイグイ歩き始めますと、背中の青年が

「あのー僕、退院するところですが……」

山田富沙子(デザイナー)

(1) 旅行

(2) 生きていることの感動

(3) 人生すなわち旅と感じるようになった。

(4) ヨーロッパは年に仕事をかねて2回ずつ行く。旅で出逢った友だち旅と感じるようになった。

(5) 自分が進歩し洗練されていくよう感動を求めて死ぬ迄旅を続けていきます。



①

②

③

④

⑤

⑥

民芸品的手工で出来たのも多く

土地の民芸の一端が伺える。

外島 健吉△会社役員▽

①歌沢を唄うこと

②会社の大先輩に勧められて

③約20年

④芸事は習い初めちょっと上手になつたと思うと人に聞かせたくなるが、芸の深さがわかつてくると人前で唄えなくなる。

⑤いろいろな趣味を持つことは老

年になつても楽しく過ごせる。

⑥趣味は自分の生活を巾広くする

木下佳通代△美術家▽



①趣味を人生

の伴侶にな

るものとは

考えません

⑤意識が何か或ることに拘束されたり緊張が続いている時に、感情の趣くままに意識を解放して

時間を過すことが、多分趣味の時間だと思う。状況によつてすることとは異なるが、自分の心(意識)の平衡を保つ助けになる。

⑥意識を空間に浮遊させること。

平田 和子△帽子デザイナー▽

①帽子作りが趣味だったけど、今はビジネスになつてます。

②女が経済的に独立を目指したのと、帽子は芸術的要素を持つていたこと。

③25年  
④趣味で終わらないでプロとして

通用するところまでやるべきだ

と思います。自分に合う物を見つけるためにあれこれするのは

良いが、つまみ食い式にするのは感心しない。

⑥人間が一人になつて孤独を感じる時、趣味はそれを救つてくれ

る唯一の物になる。

杉尾友士郎△写真家▽

①磯釣り

②海が好きだった

③20年

④1年分の雨水とヘドロの168センチの深みに落ちる。悪臭が4、

5日とれなかつた。

⑤神経の消化

⑥人生=趣味=仕事

焦 梅華△スナック・メイフアーバー▽

①ヨガ体操

②肉体美と健

康維持のため。

③2年余。

④本場の先生に習つていたのだけれど先生の奥さんが私の美貌?

に嫉妬し始めたので2ヶ月で止

めてしまふ。私は意欲充分だつたのに……。

⑤趣味を媒体にして視野を広めた

いし、自分自身の人生において何らかの影響力のある人に出会いたい。

⑥いつも精神的にリッチな人生を送りたい。

藤間緑寿郎△邦舞家▽

①知香派いけばな盛物。

②内弟子時代

師匠の家に

花をいれるため。8才の時から。

③13年

⑤生け花盛物を通じて四季の移り変わりを知り、私の門弟の方々にも日本のかたを感じてもらおうと思い続けております。

⑥(踊も生け花も)「道は同じ」

鶴尾 卓思△医師▽

①パイプ造り

②3年前から

④手指にマメを作りながらみがきあげたのに思ひぬところにヒビ

ワレがあらわれたり、いざ葉をつめて火を付けると木がこげてしまつたり失敗は数限りなし。

⑤作成の途中少し手を抜くと出来上りが全くみじめになる。何事なくしないと惨めな結果になる。

も過程を大切に。手を抜くことなくしないと惨めな結果になる。

米 花 稔△神戸大学名譽教授▽

①謡曲

②大学時代。父の影響。中斷して

この2年は相当力を入れている。年を重ねて外から本格的に

注意される機会は、ここでの稽古しかないことを感じたから。

45年とも2~3年ともいえる。

④師匠より厳しく注意を受けるこ

との爽やかさが最近力を入れる



ようになつた理由。

⑤学生時代から何となくやつていつた謡曲が、最近になつて心の中で一つの役割を持つようになつたことの因縁を不思議に思う。

⑥「知的好奇心」と「謙虚」ということばが好きです。



若山

晴洋／ローズガーデンオーナー

- ① キャンプ、  
山歩き。

- ② 子供の時か  
ら野山をか

け回るのが好きだった。

③ 5年程。  
④ たまには都会から離れて自然界にとけ込むのも楽しいものだ。

柏木 善平／医師

① 旅行（海外旅行、ドライブ旅行、クルージング）

② 約20年前より。原則としてできるだけ夫婦同伴で行つてきた。

月並みだが繁雑な実生活からの息ぬきのため。

③ 約20年

④ 時間に縛られた実生活だから趣味の時間は自由でありたい。できるだけ同じ場所にいてハブニングを期待する。旅の楽しみはそれに伴ういろいろな歴史、即ち美術、料理、酒など。酒は世界各国のミニチュア壇を集めてまもなく1000種類になろうとするのを密かな楽しみにしてる。



伊藤 ルミヒビアニスト

- ① 占い（主に

- 四柱推命）

- ② 中学3年。

- 初めての有

料コンサートの出来を占つて。

④ 幸か不幸かどつちもなし。

⑤ 神秘なもの未知なものへの憧れと探究。現実の生活からの逃避精神集中と統一ができる。

⑥ 平和・健康・愛、その次に音楽

⑤持続すること。夫婦で旅行することに死ぬ程倦怠を感じてもダメも短い人生、自分的心に正直に生きる為にはこの原則は崩れつづある。各々好きにやろう！

⑥ 人間の心の自由、自分自身の気持に正直に生きる、積み重ね。

寺本 混（淡路屋社長）

- ① 登山  
② 後立山のスキー学校に参加して  
③ 26年  
④ スキー、秘境旅行、スキュー、バーダイビング、ハム無線、船舶操縦などを組み合わせたデッカイアドベンチャー（？）を実行した。

⑤ 登山家はいかなるときも最も果敢であると同時に、最も慎重でなければならぬ。この矛盾と闘うべく運命づけられた登山家に榮光あれ！

⑥ 登山家はいかなるときも最も果敢であると同時に、最も慎重でなければならない。この矛盾と闘うべく運命づけられた登山家に榮光あれ！

⑥ 趣味のある人は幸福だと思う。

人生の一刻、安らぎになりまた生き甲斐になる。私の恋人は「赤い貴婦人」！

井上 重義（山陽ニュース編集者）

- ① 郷土玩具の収集

- ② 15年前に「日本の郷土玩具」

という本を読んでから、庶民の文化財ともいえる郷土玩具を後世に伝えなければと思った。

④ 郷土玩具を求めて旅をした時、小遣いが失くなり昼夜ラーメン夜行で行つて夜行で帰るという旅も、今では楽しい思い出だ。

⑤ 昭和49年に郷土玩具館を建ててからは自分自身だけの趣味ではなくなった。今では趣味といふ

① 紅茶の収集  
② 友人からメルローズ社のオレンジ・ペコを紹介してもらった。

丸 晴彦（フォーク・シンガー）

（continued）

より人世の大仕事と思つてゐる

来年には更に施設を拡充し、我が國屈指の物になるはずだ。

⑥短い一生だから、自分なりに後世に残る仕事をしたい。

福岡 康年／喫茶ディラ・オーナー



①奇術  
②誰だつて不思議なものに憧れるの

③約20年

④アフリカの奥地でやつて「魔法使」と間違われ、観客が「お前は悪魔だ」と騒ぎ出し、命からがら逃げた。

⑤長くやつていると時にはまつたく『いやけ』がさすのですが、まあ、全体としてやつていると楽しいから趣味となつたのです。

⑥どんな趣味でも10年やれば人並みにはなれる。

東仲 一矩／舞踊家

①読書  
②幼少の頃より絵本

③約20年

田辺 聖子／作家

①UFOに関する情報と古代文明についての通俗解説書を集めること。

②20年位

③UFOが見たくて夜空を見過ぎてボーコーインになつた。

④UFOが見たり続けたりでそれでもやめられません。くされ縁です。

（到着願）

田原 実／阪神アニメーションブループ

①映画とアニメーション  
②川本喜八郎作「花折り」を見てから。高2の時。

③7年

①こけしの蒐集、木地屋（こけし作  
者も含め）の歴史、習俗の研究。  
②昭和5年頃から、素朴な美に感  
動して。

③こけしは50年。木地屋は40年。

④山深く入らないと、古い伝統を  
持つ木地屋に会えないので連絡  
もなく入っていくと日が暮れて泊まる所もなく困った。

⑤研究は（極めて少ない）文献によると他は、現地を根よく踏査するほかない。歩くことは苦勞であり、またそこに楽しみもある。

⑥道頓堀にあった筒井民芸品店の老女将に「出た時に買うときなはれ」といわれた。見付けた時にはチャンスを逃すなという蒐集の一つのコツだと思った。



山本 芳樹／会員

①エロスに関する美術、文学の鑑賞と蒐集。

②性の歓喜と悲哀と神秘性に魅せられた。何時か定かではないが18才位かな。



①UFOに関する情報と古代文明についての通俗解説書を集めること。

②20年位

③UFOが見たくて夜空を見過ぎてボーコーインになつた。

④UFOが見たり続けたりでそれでもやめられません。くされ縁です。

（到着願）

①「エロスに興味がある。エロスこそエネルギーの根源だ」といふとケッタイな人々など怪訝な顔をされる。日常の会話ではまだ正當に通用しないようだ。

②楽しくて楽しくて仕方がない。

1日が暮れて終るのが惜しくて惜しくて仕方がない。今日も素晴らしい本が手に入った。生きている醍醐味はこれからだ。

③趣味というより生き様だ。

④大変安直に多様な人生の妙味を

生活であります。（本当に）

⑤つかや処作を同じくする。より

てこの質問には事欠かぬ日常の

共鳴セリーヌを読めば又おかげであります。（本当に）

⑥大変安直に多様な人生の妙味を

経験できることに喜びを感じ

幸福を覚えます。

政務次官、戸谷松司兵庫県副知事、宮崎辰雄神戸市長、永野重雄日商會頭、佐伯勇大商會頭らが来賓として出席。過去百年における

功労者をたたえたあと、外島会頭の「神戸の一層の飛躍をめざし、情報機能の強化、産業の高度化、中堅、

披露された。

また同所発祥の地、兵庫区島上町に記念碑を建立。

## 経済ポケット ジャーナル



### ★多彩に繰り広げられた

神戸商工会議所

創立一〇〇周年記念行事



神戸商工  
会議所へ会  
頭・外島健吉

神戸商工  
会議所

年十月十四日、神田兵右衛門氏を初代会頭として兵庫

商法会議所が設立されて以

来今年で百年を迎えた。

これを記念して去る十月十

三日に開かれた「記念式典」

を中心て各種行事が企画さ

れ、いずれも成功裡に終了

した。

そのトップをきつて「生

活文化と未来をひらく企業と市民のひろば」と題して

九月十六日から四日間、サ

ンボーホールで開催された

「K O B E 産業展」では、

神戸商工会議所百年の歩み

を知らせるとともに、未来

の神戸の産業の姿を示し、延べ一万七千人の来館者を数えた。



満員盛況だった小松左京氏の講演会

また「会員講演会シリーズ」として三回の講演会を開催。小松左京氏（作家）、吉本晴彦氏（吉本土地建物社長）、旭堂南陵氏（講師）が

それぞれの分野のテーマで講演。初回の小松氏の講演会は、九月十九日同所会議室において「二十一世紀の

経済と文化」と題して開かれ、約三百五十人の経済人

が聴講した。



神戸国際会館で開かれた記念式典

中小企業の振興をばかり、試練を踏みこえる決意を新たにしている」との式辞の

「神戸ウオーケ」「神戸商業まつり」そして日商、大

業と共催で「日商一〇〇年

記念展」などが開かれた。

十月三十日、その幕式が行なわれた。記念碑は高さ九十センチ、幅一・二メートル、厚さ二十センチの白みかけ石製。さらに須磨海浜公園の国民宿舎前に高さ十三・五メートルのマスト形をした時計塔を建てる計画があり、これは五十四年一月に完成予定。

百周年事業としては他に頭の発声で万歳三唱で幕を閉じた。また同式典にて小

十一年三月に開講する神戸国際ビジネス学院の受付全般を担当。高校時代から食べ歩きが趣味。神戸は世界の味が楽しめるから、まだ食べても尽せそうもないらしい。だけどそんなに食べても太らないからいいですね。ところで結婚観とでもいうか、夫婦べったりでなくて、どこかの部分だけが一致していればいい、つまりはある程度自分の世界をしっかりもっている男の人が多いそう。つまりはそんなに私も束縛されたくないなっていうことみたい。<甲南大学卒>



発祥地に建つ記念碑

### ★KOBEオフィスレディ★



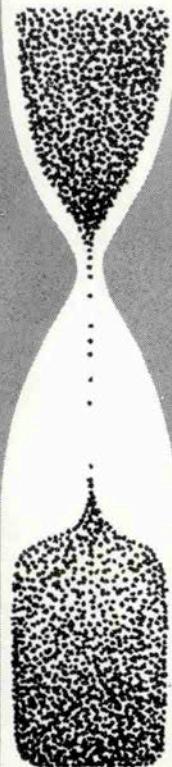
片山 実紀さん（24）

<神戸国際ビジネス学院勤務>

来春4月に開講する神戸国際ビジネス学院の受付全般を担当。高校時代から食べ歩きが趣味。神戸は世界の味が楽しめるから、まだ食べても尽せそうもないらしい。だけどそんなに食べても太らないからいいですね。ところで結婚観とでもいうか、夫婦べったりでなくて、どこかの部分だけが一致していればいい、つまりはある程度自分の世界をしっかりもっている男の人が多いそう。つまりはそんなに私も束縛されたくないなっていうことみたい。<甲南大学卒>

★キャンペーン

国際文化都市神戸を考える



14

# 生活を原点とした 芸術大学を神戸に

□出席者

服部

正

（大阪社会事業短期大学教授）

水谷

穎介

（都市・計画・設計研究所長）

★文化・芸術の総合センターとしての神戸芸大

服部 私は神戸市の二〇〇一年のマスター・プランの文化

・福祉・医療の部会長をやりましたので、準備の段階から四年ほどマスター・プランに関って来ました。その中で神戸市いろいろな都市像を規定しているわけですが、そのひとつに市民文化都市というのがあって、そこで、神戸芸術大学をつくるということがハッキリと書かれているんですよ。それをちょっとと説明します。

第一が、これまで多くの新しい芸術運動を生み出し、それを全国に広げて行ったという歴史と多くのすぐれた芸術家を育てて来たという実績を神戸市がもつてゐる。文化・芸術についての総合的な教育研究機関としての芸術大学を神戸にぜひつくるべきであるということなん

赤根 和生  
（美術評論家）

松本 宏  
（洋画家）

新谷 琳紀  
（彫刻家）

す。第二が、絵画、彫刻、音楽、演劇、舞踊、デザインなどの教育研究、ならびに、これらの芸術作品や文化活動の国際交流、そして、海外に向って開かれた国際情報都市神戸にふさわしい性格をつくる。第三は、それを受けて、文化・芸術に関する総合センターとしての機能をもつ神戸芸術大学を拠点として市民の文化運動を呼び起こし、地元文化への刺激を与える。この三つの項目から成り立っているんです。

マスター・プランをつくる過程で、かなり、神戸芸術大学に大きな期待をかけたわけですね。その一番大きな根拠は、ファン・ショーン都市だとか何とかいっていいるけれど、ファン・ショーンだけがバカツとあるわけじやなくて、総合的な芸術大学がなければいけないということと、もうひとつは、そのことによって神戸が総合的な芸術文化

センターをもてるということなんですね。マスター・プランでは、市立の総合的な芸術大学ということですが、神戸市が財團をつくって、間接に経営する学校法人にすることができますね。

もうひとつ私が考えるのは、芸術大学をもつてないとたくさんの芸術家を神戸に引きつけられるわけですね。

地元の芸術家との交流の場ももてるわけです。神戸に根を下ろした大学と研究機関と情報センターが一つになつたものをつくることができたらいいなということです。

赤根 全く同感です。私個人にとってはマスター・プランが今ここで初めて具体的になつたわけでありがたいことですが、ただちよつと引っかかることは、言葉尻を捉えるようですが「新しい芸術運動」は果してあつたでしょうか。詩、文学には認め得るかもしれないが、少なくとも視覚芸術の分野では、普及運動としての実績は別として、運動としての「新しさ」は皆無に等しいと思います。なるほど、文明開花以来の新しさに先鞭をつけた歴史的実績は誇るべきですが、むしろその面での不毛を直視すべきだと思います。その上に立ってこそ独自な教育理念に基づく芸術教育運動の場としての大学が可能なではないでしょうか。一つの起爆力となると思います。まして伝統も生産部門ももたない神戸市がファッショングループを名のる以上、ファッショングループなど、ジャーナリストティックな企画を單発的にやってお茶をこすのではなく、遅ればせながらもせめて芸術大学はぜひつくるべきです。芸術の根のないところにはびこるファッショングループなどは根なし草の仇花にすぎません。

実は先年、ファッショングループ提言以前、本誌が「芸術大学を」の題名のもとに開いた座談会の席上「すでに市立の外国語大学があるのだから、この芸術学部を併設して総合的な芸術大学に」という提案をしたのですが、世界の美術がコンセプチュアルな傾向を強めている現代では、作家が自作についてことばによって説明を必要とする面もあるわけですよ。外国の作家とわたり合うぐら

いの語学力をもつべきです。外国語大学が語学の虫を育てるだけではない巾と厚みを加えることになると思ったからなんですが……。

服部さんのご発言のなかには研究と情報は出てくるんですが、学問という語がないことに不満が残ります。大學である以上、学問の府としての充実度が要求されます。それに神戸市はほかに須磨の離宮公園の野外彫刻展の成果という十年を超える実績もあるし、この際ぜひ市立で建学してほしいですね。漠然としてではなく、はつきりと専門に設立準備委員会の構成から進めてほしい。

水谷 僕も神戸に芸術大学があるべきだと思うし、必要性は非常に高いと思うんですが、今、バタバタとつくることはマイナスが多いですね。本当にいろんな衆知を集めて、しっかりとリーダーシップをもって、ものをつくって行くという態勢は神戸ではないと思う。そういう段階ではつくらない方がいい。そういう意味で、芸術大学をつくらなくちゃいけないという運動、みんなの力を結集して行く必要は大いにあるけれども、あわててつくるべきではない。

むしろ、今、必要なことは、兵庫県にも神戸市にも工芸高校ひとつすらないのですから、神戸も兵庫県も本当の意味での地域文化をつくる条件には欠けていくと思うんです。そういう意味で、まず、芸術大学の前に神戸市立工芸高校をつくったらどうかという気がするんですね。これは県立でもいいです。各地域に一つずつ地場産業を背景にして、職能に生きるという人たちをつくる工芸高校をまずつくって、それから次は芸術大学という段階でもいいのじゃないかと思います。

松本 基本的には芸術大学はあっていいものだし、つくるべきだと思いますが、つくる場合には、神戸あるいは兵庫県の地域産業とか文化に還元できる、そういうものであれば、市とか県のバックアップがあるし、そういうメリットがないとダメだと思いますね。

★まず、アルチザンの専門学校が必要だ

服部 神戸市は、今、芸術文化センターを構想中です。

これは、おそらく日本最大といつていいものができます。市民がそこでアトリエも借りられますし、コラスの練習もできるし、プロ養成のものをつくるわけですから、芸術大学構想の中に、そういう芸術文化センターとのからみをもつて考えるチャンスではあると思う。



服部 正さん



水谷 順介さん

新谷 時機は熱して来ているように思います。今まで神戸に何らかの形の芸術大学のようなものがなければいけなかつたんですよ。芸術大学ができると聞けばうれしいですね。しかしながら、芸術大学をポンとつくることを考へるより、すべてのものには順序があるように、

赤根 先ほどからアルチザンということばしきりに出でていますが、もともとアルチザンを含まないアーティストは存在しないはずですが、戦後の美術界に許された無秩序な自由のなかではその姿勢が崩れてきている。徹底した技術の確立のうえで、しかも、美術教育＝技術教育に偏らず、理論面の裏づけに支えられた独自な創造教育が必要です。設備も完璧を期したいし、芸術大学がでなくても駅弁大学ではしようがない。

水谷 中途半端な芸術大学をつくることほどつまらないことはない。

新谷 そういう芸術大学を神戸にいったんつくったら、ちょっととオーバーな表現かも知れないが、世界で通用するシンボル的なものでないといかんということですよ。

合芸術大学をつくって行くことを考へたいですね。しかし別に「芸術大学」という総合的なものでなくて、そ

れぞれのジャンルの専門大学でもいいと思う。むしろ、専門の学校の方が間口が狭くて奥深いからいいかも知れませんね。芸術大学をつくる前に工芸高校のようなものは欲しいね。我々ものづくり屋——芸術家や職人にとってまず欠くことのできないものは技術です。アルチザン（職人）を養成しその正しい技術をしっかりと学ぶことができるような中学校、高等学校や技術専門学校が神戸にないといけない。他都市には芸術大学とか美術大学があるから神戸にもそんな名前の大学が欲しいという発想ではないと思うが。アルチザンを養成する専門の技術学校をつくることがまず先決ではないでしょうか。そうすれば素晴らしいアーティストもぞくぞく誕生するはずです。

松本 大学以前のアルチザンの養成ですが、大学といつたって、たとえば、芸術大学のイメージをそこで変えればいいのであって、そういうものを養成する、そういうものを一緒につくれる大学を建てればいいわけですよ。もつと研究的・職人的な雰囲気を盛り込んだカリキュラムを考えればそれで生きて来るわけですね。

★具体的な芸大設立の運動を始めよう

赤根 新しいものをつくるためには伝統や固有の組織を



新谷 穎紀さん



松本 宏さん



赤根 和生さん

壊すだけの力がなければならない。そのための抗体として「なにもない」というその不毛の認識こそ肝要です。京都市芸大は伝統から自然発的に生れたとすれば、商業都市大阪がその文化的不毛を抗体とし、大阪芸大はそのレールに乗ったといえるでしょう。

報の提供が徹底的に行われる。もし工芸高校をつくるなら、それは今の高校のアイディアでつくつたら絶対にダメだと思います。

赤根 塾をつくることですね、塾を。

これについてはあの大学紛争の直後、神戸芸術学林というのができ、理論面でわたしも参加していたのですが、その後その科目がいわゆる足切で中止、退いたわけです。神戸というところは芽生えてもとかく長づきしない。この運動だけは民間からしつこく続けていってほしい。

新谷 いきなり芸術大学というシステムよりも、私はアート・インスティテュートとかアカデミーというシステムの方が今議論している芸術大学構想のイメージや内容にふさわしいと思いますが……。

県下、市内にはたくさんの彫刻が設置されているのに残念に思うことは神戸市にも兵庫県にも公立の彫刻の学校あるいは研究所が一つもないことです。市立、県立美術館に附属してまず彫刻の研究室的なものでもいいから、趣味の域から脱した彫刻を本格的に研究できる専門の機関が要りますよ。

服部 新しい芸術大学は、思い切って開かれた、つまり、大学令による大学のギリギリまで開かれた大学であつていいと思うわけです。芸術文化センターというハンドなものを作つくりつけて、ファッションから何からみんな含めてそこで勉強するということ、それに対して情

松本 芸術大学の性格をマンツーマンの授業と置きかえれば、我々だって教官じゃないわけね、ある意味では。講義を受けて知識の伝達じゃないわけでしよう。一緒にものをつくり、考え、そういうプロセスの中で授業というものが形になるわけでしよう。そういう小さいマンツーマンの集積が集まるような大学は、かなりいろんな恵を借りて煮つめて行けば不可能じゃないと思う。本当に神戸なり兵庫県なりに必要であれば、必要だと思いますが、我々も仕事をしたいしね、仕事をする場がそういう大学ならぬ、だから、急いでどうのこうのじやなくて、今、時期的にはこういう話がボツボツ出て来て、もつとシビアになって、設立の準備機関ができる、もっと具体的に動いて行つていい。それには、やっぱり、県とか市の財政ですね。イメージづくりと同時に行政的にも

んなことをできるだけ早くやらないと。もつと小さなものから身近なところが実験的にもう出発している。

**新谷** 優秀なアルチザンの養成なのか、アーティストをつくるためなのか明確にして学校のつくり方を研究する

### ★福祉や生活と一体化した芸大を神戸に

**水谷** 神戸はいい意味で実験都市だといっているわけだけど、固定的でこういう形で芸術大学をつくりますよと決める前に、芸術大学運動みたいな形で、どこかの古い校舎でもいいからそういうスペースを借りて、そこで、実験芸術大学みたいな形でいろいろやってみてもいいのじやないかという気がしますね。ただ、そういうことの繰り返しで、本当に世界に勝負できる芸術ができるかどうかは別問題です。

**服部** ピラミッドのつさんは芸術大学であって、その基礎が芸術文化センター、市民参加の場所である。

**松本** アルチザンには理屈でないものすごい苦しみと喜びがあるんですよ。お互いにも感じ合える場が芸術大をつくるまず最初の原点ですね、そこからいろんなことが出て来るのじゃないですか。ただ、すべてがパブリックで市民に開放し、全体のレベルを上げるということだけじゃなく、一方で密室的なマンツーマンで作業のできる場がないといかんわけですね。アルチザンの優秀なものをつくるわけでしよう。一般市民をシャットアウトして密室でやる作業も一方で非常に必要ですね。

**新谷** たとえば靴のアカデミー（大学）なんかをつくつて欲しいですね。神戸の町ならではのアカデミーだと思う。地場産業の発展に一役も二役も、一石二鳥かな…。

もしそうなれば、これこそファッショングループ神戸のアルファ（夜明け）を意味しますよ。靴の大学といつても靴のつくり方を学ぶだけだと思うと大間違い。絵画、彫刻そしてデザインも入っているし、いわゆる美術学校アーティスティカルファ的な学校なんです。人間にとつては足はものすごく大事なんです。また、足に靴がピッタリフィットす

るということは勝敗を左右するぐらいといいますから、人類が二本足で歩いている限り足と靴というかハイモとの関係はもつと大切に考えなければいけないと思いますね。芸術大学をつくる一つの取つかかりとしてケミカルシユーズを例に挙げてお話をしているわけです。

**赤根** 大学が世界ではじめてできたのはボロニアで、その頃は、いわゆる笈を負うてその師のところに集まり、学生が金を出し合って教師を傭つたという形になつたわけですが、パリを凌ぐファッショングループはその源流に古代ローマ以来、中世、ルネサンスの遺産、そして未来派発生の地としての遺物に溢れ、もちろんアカデミーがあり、派生的に靴ほかの勝れた皮革製品で有名だし、男性ファッショングループを叩きこむことによって、戦後の教育に無視されてきた德育の面も強調できるし…。とも角、教えられるのではなく、自ら学びとるという主体性に根ざすべきです。

**松本** 原点が欲しいですね。

**服部** 福祉はトイレット・トレーニングに始まってトイレット・トレーニングに終るんです。赤ちゃんのおむつの世話が始まって、年を取つてからのおむつの世話。トイレット・トレーニングは福祉の一一番大事な仕事なんですね。そこから始つて学問的な体系はあとからできて来る。芸術だってそれとよく似ている。生々しい人間的な原点をさがしているわけです。

**水谷** 今までの日本の芸術大学は、福祉とか生活とか離れていたわけですよ。そういうものを一体にした学校をつくりたいですね。

**赤根** 障害者とくに聴覚者への進学には積極的に道を開くべきだし、純粋美術は別として、デザインが芸術とみなされるようになつた今世紀には、产学共同の姿勢をはじめから打ち出すことも考えられるし、とも角、開かれた大学であつてほしいですね。（ブランドウブランにて）

**田崎真珠株**

取締役社長 田崎俊作  
神戸市垂水区旗塚通 6-3-10  
TEL (078) 231-3321

**オールスタイル株**

取締役社長 川上勉  
神戸市生田区伊藤町 121  
TEL (078) 321-2111

**カネボウベルエイシー株**

取締役社長 稲岡必三  
神戸市生田区三宮町 1丁目17-4  
センター・プラザ東館 8F  
TEL (078) 392-2101

**㈱ベニヤ**

取締役社長 松谷富士男  
神戸市生田区三宮町 1丁目54  
TEL (078) 332-3155

**モロゾフ株**

取締役社長 萩野友太郎  
神戸市東灘区御影本町 6丁目11番19号  
TEL (078) 851-1594

**入船株**

取締役社長 小泉進吉  
神戸市灘区新在家北町 1丁目 1-19  
(阪神電鉄新在家南) ブリコビル 3F  
TEL (078) 851-3191



キャンペーン「国際文化都市神戸を考える」の企画は以上6社の提供によるものです。